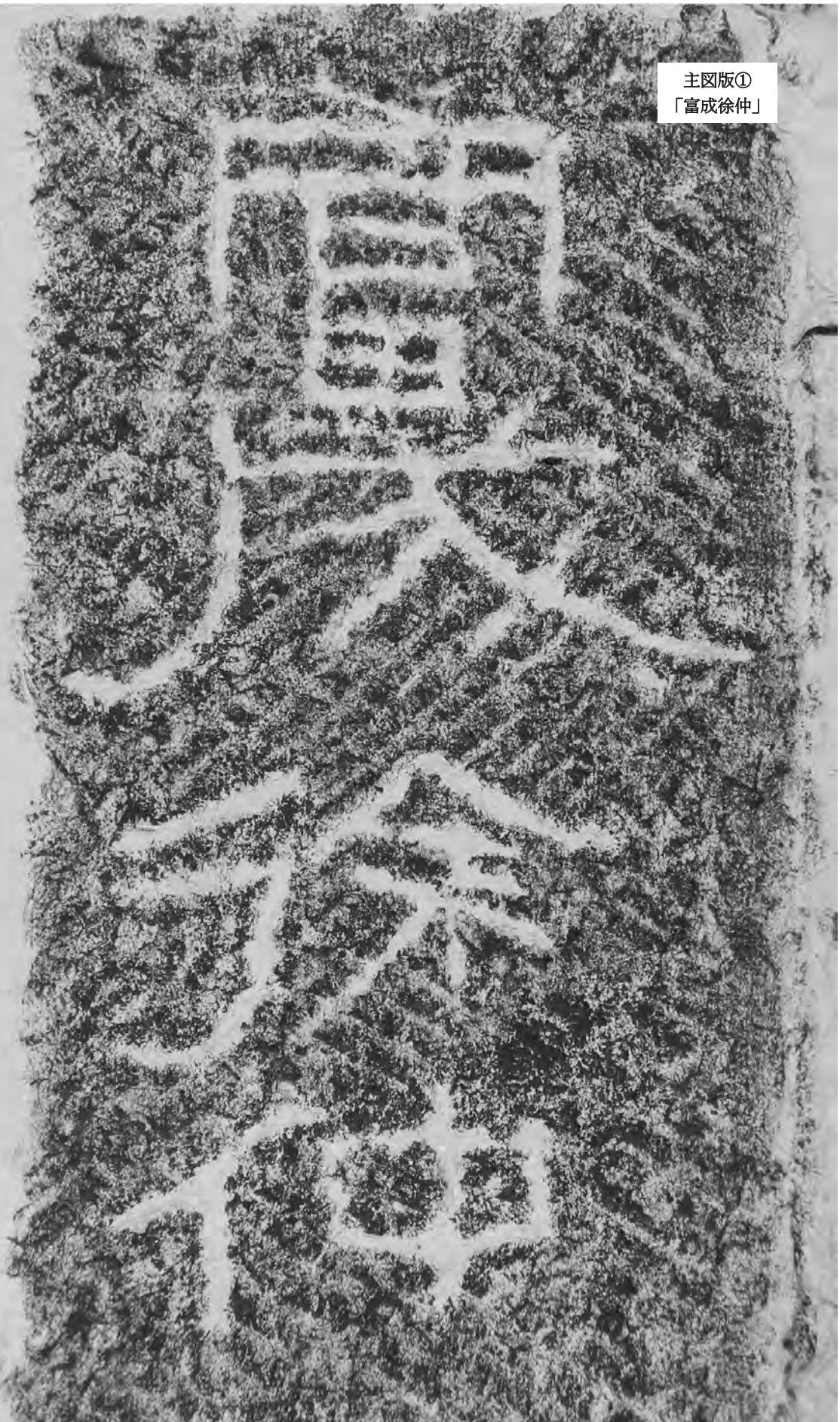


主図版①
「富成徐仲」



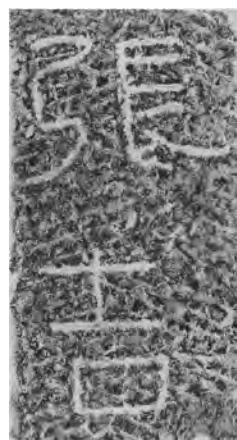
「秦漢時代の瓦当と磚文」

(14)「任城王墓黃腸石題刻」漢時代

③ 張吉

② 蕃張尉

原拓写真



④ 馬初



⑦ 金鄉韓光



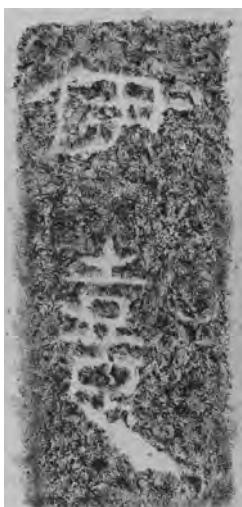
⑥ 沐孫有



⑤ 高都石



⑧ 伊意



近年、山東省濟寧市で幾つかの後漢時代の王墓が発見された。その墓室の壁面には、石を煉瓦状に切り出した石材が使用されていた。磚ともいいうが、黄腸石とも云われる。この黄腸石の一面には、当時の職人が、草率に刻した

人名などの文字が、数多く見られる。

これまでの磚文や瓦当は、模版から造られるが、この黄腸石は、それぞれが直接に刻されたものである。書体は、後漢中期の書風であるが、やや古隸書風であり、筆勢表現は、それほど顕著

でない。しかし⑥や⑧の様に波磔や払

いに八分隸の抑揚を示すものもある。主図版①「富成徐仲」は、抑揚の少ない線で構成されているが、この字画をなぞると八分隸の抑揚を彷彿とさせる。また③④は、文字構成の稚拙さが魅力

的である。②は、原石の刻された石面とそれを拓したものとを並べた。書風を想像する際に参考にしてください。

伊藤滋（書齋名・木鶴室）

書道芸術院

平成の群像 (2018)



第66回毎日書道展 秀作賞受賞作品

高橋真舟書

師匠に恵まれて



高 橋 真 舟

なぜ今、書道を続けているのだろうか？
と思い出してみると、やはり切っ掛けがありました。

「習字クラブに入りませんか？」と頭上で声がして、ふと見ると、中1の習字の時間に、担当の先生が笑いながら声を掛けて下さいました。思えばあの誘いの言葉がなければ書道に進んでいたかどうか……

あの時、私の気持は舞い上ってしまい、クラブ活動は習字クラブと決めてしましました。

その先生は、その前年日展に入選され、青山杉雨先生に師事されていた森 狹江先生です。また若狭高校では、炭山南木先生に師事されていた早川青楓先生に御指導いただきました。

社会人になって少しブランクがありましたが、種谷扇舟先生の門を叩き、運良く入門させていただき、書とは何かを一から御指導受けました。余りの奥の深さに何度も挫折の憂き目を見ましたが、止めるのはいつでも止められると心に言い聞かせ、今まで至りあつと言う間の40年間でした。

森 狹江先生、早川青楓先生、種谷扇舟先生はそれぞれ会派は違いますが、師匠に恵まれ、感謝の一言に尽きます。特に種谷扇舟先生は、「本物を見なさい。本物から学びなさい。」と貴重な拓本を惜しげもなく展示して下さり、白扇書道会展の拓本の展示には、御手伝いをし、本物に触れる機会を作て下さいました。そして中国への旅では、直に石碑を見、触ること、そして震える感動を書に表現することを教えていただきました。ここに掲載した書は、敦煌へ行く途中、馬圈湾に立ち寄った時、黄駱駝の隊商が休憩中に、恐らく火事に会つたであろう跡があり、何かあるかなと搜していくところ線刻のある破片が出て来ました。そのことに想いを馳せて創作しました。書は人の喜びや悲しみなどその時々の感動を表現し、書ける喜びがあります。御指導下さった種谷扇舟先生はじめ多くの先生方へ心より感謝申上げます。今、改めて振り返って見ますと師に恵まれ、家族の協力があり、充実した人生を歩むことが出来ました。まだ少し先がありますが、楽しんで書作に取り組めればいいな……と思っています。これからも御指導下さいます様よろしくお願ひ申し上げます。

書のひろば

理事長 辻 元 大 雲

第71回書道芸術院展搬入状況
特別賞選考 春華賞に千田春月さん

昨年12月の一般公募・無鑑査作品鑑別審査に続き審査会員候補・審査会員作品の書類搬入が1月19日行われ、搬入状況は別表の通りとなった。前回比若干減となり一般公募・無鑑査作品と合わせ微減となつた。

（速報）
選考、29日春華賞選考が行われ審査会員に対する賞、大賞以下各賞が決定した。
花・渡辺柱雲、（か）九條純代・小島孝

第71回書道芸術院展搬入状況

部門	審査候補	前回展	審査役員	前回展
漢字部	261	285	185	179
かな部	49	47	53	49
現代詩文書部	254	255	172	161
篆刻・刻字部	23	24	23	24
前衛書部	154	162	103	97
合計	741	773	536	510
増減	(-32)		(+26)	

第71回展春華賞 現詩 千田春月
(第72回展大作家)

同 準大賞 (漢)大庭翠村・森田藤谷
(現)佐藤桂鳳・永井鳳雪、(前)高原紗秀

同 白雪紅梅賞 (漢)熊谷桃華・佐藤由香

同 菊見芳紅・田畠明琴・土屋恵仙、(現)大橋佑朋・小野寺久美・坂本春花、(篆)久保村南城、(前)後藤美希・嶋

同 俊英賞 (漢)新爽風・新井赫扇・岡映里・小山内谷玲・春日明膝・柄山明珠・木下玲窓・木村澄春・清遠瑞・小泉潤・渋谷愛華・高岡秀汀、種谷森城・土屋光輝・坪井明寿・林清水・樋井鷹春・藤野江雪・本田江燕・山崎秀水、(か)小林純風・小林美由希・長谷川千峰・武藤房枝、(現)阿部珠光・阿部綠玲・猪股白慧・奥麗流・奥村美楓・小野寺京芳・門野匡雲・木村順峰・齊田舞夢・酒井優子・佐藤光耀・佐藤俊光・須藤雪蓮・名取美紬・新田雄山・貫名桂峰・長谷川翠・人見華泉・湊溪花・若見苑袖、(篆)河原木孤邨、(前)青木かよ・宇都宮趙辰・金井みどり・岸直美・栗原りか・小暮千晶・地頭汀仙・寺澤信子・皇山成山・林一宏・辺見芳紅・前島登代子

同 春華賞候補 (A 赤シールで表示)
秋季展選抜作家)

同 春華賞候補 (A 赤シールで表示)
秋季展選抜作家)

本年からの秋季展新企画、「書道芸術院の書 漢字」(会場 アートサロ

ン毎日) 出品者17名

朝倉希代子・安藤華祥・一谷春窓・大内焚軒・河岡北秀・川村美泉・菊池昌

(漢)岩垣若翠(72回展大作家)・青柳明華・有野塙扇・一森琴映・大内焚軒・岡村恵窓・上田琴秀・影山扇葉・川村嵐・藤井龍仙・松浦錦扇・渡辺柱雲

美泉・木佐貫鮮水・佐藤葉扇・島田白露・須田瑞兆・竹浪叙舟・橋由華・谷田熾箋・徳岡翠江・西川翠嵐・吉永沓花・渡辺柱雲、(か)九條純代・小島孝

予・鈴木せつ子・都丸みどり・藤村昌子、(現)出原悦柳・大隅晃弘・金瀬玲珀・樺・桐岡紀明・佐藤弦佳・佐藤初香・鈴木智翠・鈴元博貫・高橋真舟・武山櫻子・長島櫻雨・畠中弄石・山崎掃雪・横田汀華、(篆)加藤鶴流・工藤深舟、(前)大町青蓮(72回展大作家)・北村白瑞・倉林紅瑠・佐藤華炎・佐藤紅茜・知野洛水・名取雅子・平岡千香子・宮崎芳玉

同 春華賞候補 (B 青シールで表示)
(漢)阿瀬浜翠燕・朝倉希代子・飯田春香・一谷春窓・北畠芳草・木村香翠・崎井恵風・佐藤星沙・小竹正高・竹本龍汀・藤原聖美・横井正江、(か)田子白嶺・中川紅蘭・羽田招佳・松村子、(現)秋山之扇・江本興舟・及川豊流・小川香輝・大平房子・菊田杏仙・小原華杏・斎藤理舟・坂本龍水・佐久間ふく子・鳴田麗雲・高木竹香・中山田桂風・広瀬舟雲・布施瑞弘、(篆)小野澤旭堂・田代明眸、(前)阿部邑里・荒川空華・一條紅蘂・大庭幸石・鈴木蕙月・鈴木養見・須藤彰一・田村良子・大和愛香

書道芸術院創立70周年記念集
70回展作品集・70年史の2分冊で

一般公募入賞者(佳作以上)是非ご購入を

創立70周年記念事業最後の仕上げとして、創立70周年記念集が発行された。

第70回書道芸術院展無鑑査以上、一般公募佳作以上の作品が収録された「第70回記念書道芸術院展作品集」と「創立70周年記念書道芸術院史」の2分冊

で発行、本院会員(無鑑査以上)及び一般公募購入希望者には2冊セットを

お送りする。70年史には掲載品写真、創立から70回展記念事業までの全記録

を付録のDVDに収録して印刷体裁の軽量化、経費節減を行った。

一般公募佳作以上の入賞者には1組7000円(送料込み)にてご購入いただけ

たく、別便にてご案内を差し上げた。申込は同封の郵便振替用紙にて入金し

ていただき、入金を確認次第送付の予定。

その他の裏表・入選者で購入ご希望の方は院事務局までお申込みいただきたい。残部にあまり余裕がないため早めにお申込みを。

外部の主な方々へは「70年史」(個

人)、団体へは作品集も併せて贈呈申し上げる予定。

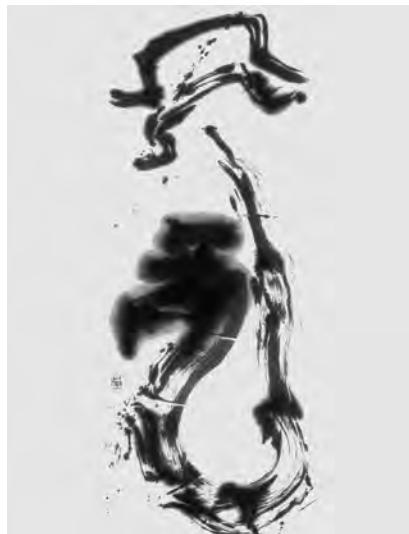
漢字(五)

小伏小扇

甲骨文の書表現(五)

甲骨文研究の第一人者といわれる董作賓は、二百数十年にわたる甲骨文の書風の移り変わりを、第一期、第二期、第三期、第四期、第五期に分類しました。その結果、甲骨文は貞人の書跡であるという考えが一般化しました。ト占には専門の占い師がいたようで、これを「貞人」といいます。

しかしその後の研究で異論が出てきました。「ト占の貞人の他に甲骨文の書契者が



小伏小扇書

ます。

「飛龍」 第53回書道藝術院展 峰雲賞受賞作

いたと考へられないか」

「各貞人が自分のト占したト辞を自ら書契するのであれば、

その貞人固有の書風が現れて然るべきであろう」

「貞人の総数は二百数十年間で百名を優に超える。しかし

書体の数はそれほどない。十五種類程度と考えるのがよい」

21世紀の書 —私の主張—



西岡雨瑠書

第53回毎日書道展 毎日賞受賞作品

現代詩文書(五)

西岡雨瑠

「躍動と沈潜と」

日頃の多忙が災いし、突然めまいに襲われた。そして1週間の入院。いかに自己管理を怠つたかを知る。天からの爆風に、我に還る。気を取り直して原稿に。今、書の美を語るには対象

に捉われることなく、直接書芸術を静的に見たい。リズム、心の奏でる音の世界。明るい喜びと勢い。そして孤独に耐えて、自分の道を模索する。たどりつくか。

今、ここに提示する拙作は、16年前、第53回毎日書道展出品作である。あの

頃、私は、ひたすら東山魁夷の全てを追った。青の世界、世界巡遊の名文から離れずに、東山魁夷は40歳頃から、芽をふき、その絵画は一段と冴え、その文章は、さらに群を抜いた。絵画は形態と色彩で、音楽は旋律と、音色で表現する。いずれも感覚的な要素を通して、精神的なものを、追求していく可能性を持つていて。長野東山魁夷美術館を訪れ、その魁夷の全感性に触れ、大きな世界へ導かれた。深い感謝と祈りを胸に頂いた賞である。単なる技に非ず、線が空気を動かし、空間の線と沈潜する。その前提に躍動がなければ成立しない。私の拙い理論である。

「動中の静」を見て欲しい。北はいつも凍る空気が。北の風はやがて、伊藤整詩の「雪明りの路」へと入って行く。この作は、その前兆の世界を表現する作である。肅々として、「躍動と沈潜」をテーマに走りに走った。これからもう理屈ぬきで学んで行きたい。書は深まり——である。そこに表現の抑制がなければならない。私は、書道藝術院に所属したこと、感謝する。

現代の書 新春展

今いきづく墨の華

(2018)

和光ホール26人展 2018年1月3日(水)～9日(火) 銀座・和光本館6階
セントラル会場100人展 2018年1月3日(水)～9日(火) セントラルミュージアム銀座
主催：毎日新聞社・(一財)毎日書道会

〈和光ホール26人展〉

干支文字



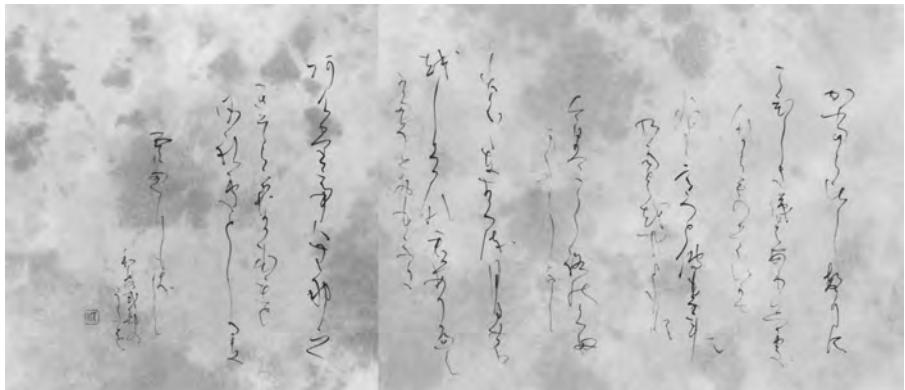
「七星の」片山由美子

70×169cm

干支文字



下谷洋子

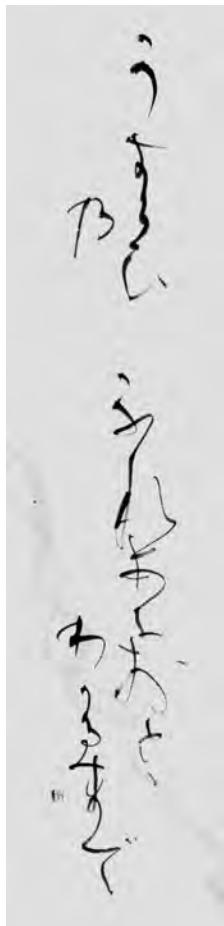


「かたらひし」和泉式部

33×78cm

「羽羽」より「正木ゅう子」

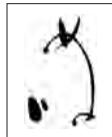
下谷洋子



142×36cm

〈セントラル会場100人展〉

干支文字



村野
大仙



「命」

60×132cm

干支文字



「
犬
」



大野
祥雲

120×88cm

干支文字



「置かれた處」渡辺和子



小竹石雲

178×57cm

干支文字



後藤
大峰



「飲水」『莊子』

60×70cm

干支文字



石井明子

「ちとせあまり」會津八一

69×137cm

干支文字



種谷萬城

「老子第六十三章」

63×137cm

干支文字



坂本素雪



「高浜年尾の俳句」

60×141cm

干支文字



真下京子

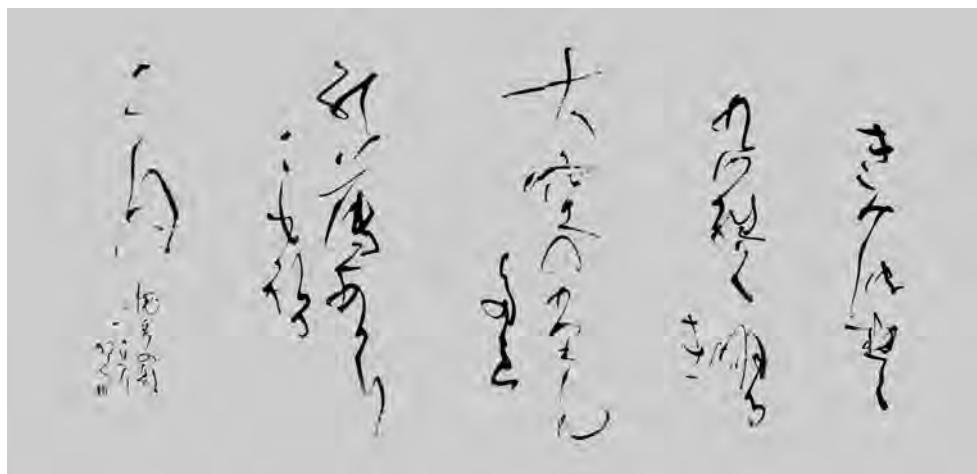


「HADOU—波動—」

105×105cm

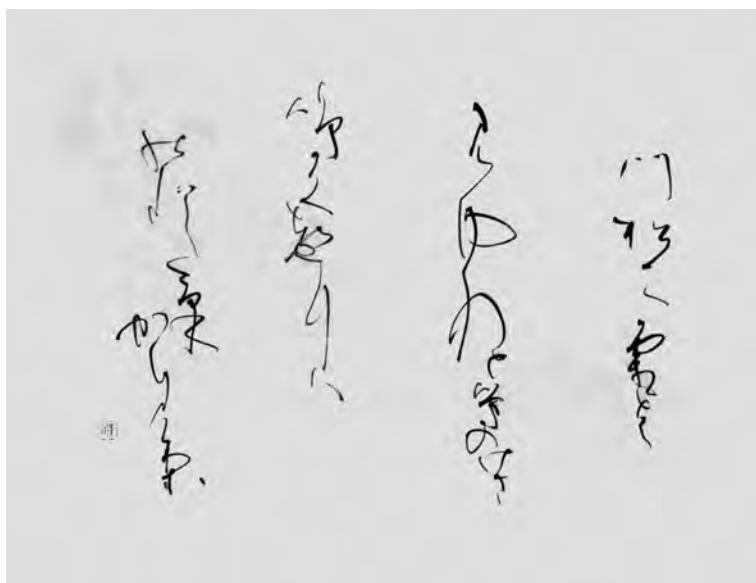
第62回
現代書道
二十人展

<会期・会場>
・東京展 平成30年1月2日(火)～1月8日(月) 高島屋新宿店
・大阪展 平成30年1月11日(木)～1月16日(火) 高島屋大阪店
・名古屋展 平成30年2月24日(土)～3月4日(日) 松坂屋美術館
<主催>
朝日新聞社・松坂屋美術館(名古屋展)



下 谷 洋 子 「二月より」(村山槐多)

83×172cm



下 谷 洋 子 「新年の鶯」(樋口一葉)

39×52cm

李柏尺牘稿（李柏文書） 東晉時代②

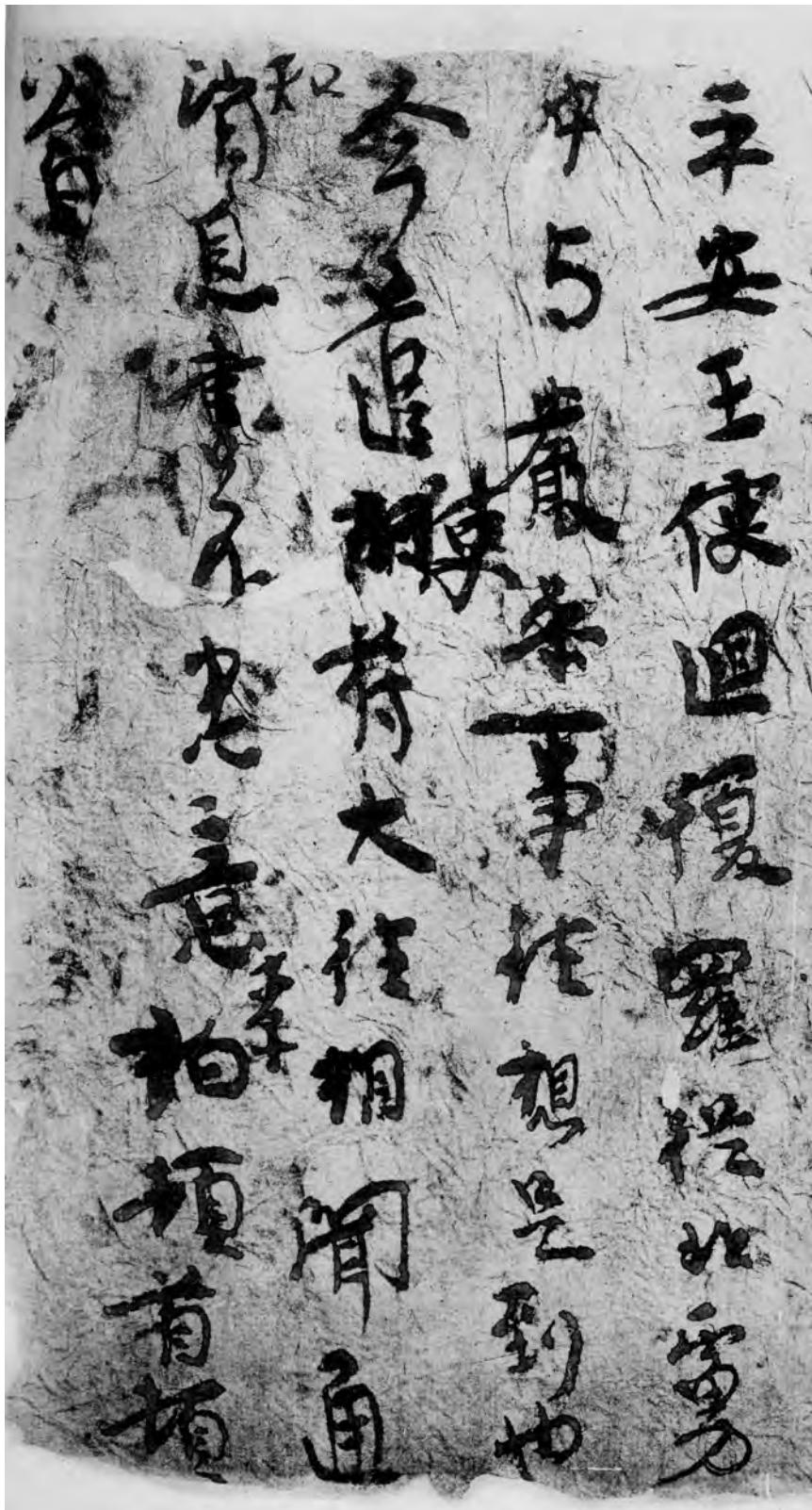
特別研究部臨書課題

II（半紙普通判・縦使用）左記の法帖より何文字臨書してもよい。
当該古典の左記掲載部分以外も可。

（解説）李柏は、五胡十六国の前涼の王張駿（307～346）のもとで、西域長史・閻内侯という官職にあった。李柏尺牘稿は、李柏が西域諸國中の一つである焉耆の国王に宛てた2通の手紙である。草稿のため抹消や書き加えの文字があり、内容は2通ともほぼ同意である。東晉初期の咸和3年（328）

（写真図版は、木鶲室の伊藤滋先生の提供です。）

（編集部）



（掲載図版90%縮小）

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨（押印のみも可）

平安。王使廻復羅。從北虜中、與嚴參事往。想足到也。今遣使荷大往相聞、通知消息。書不悉意。李柏頓首頓首

(云
針
藤原行成) 切
さり

②

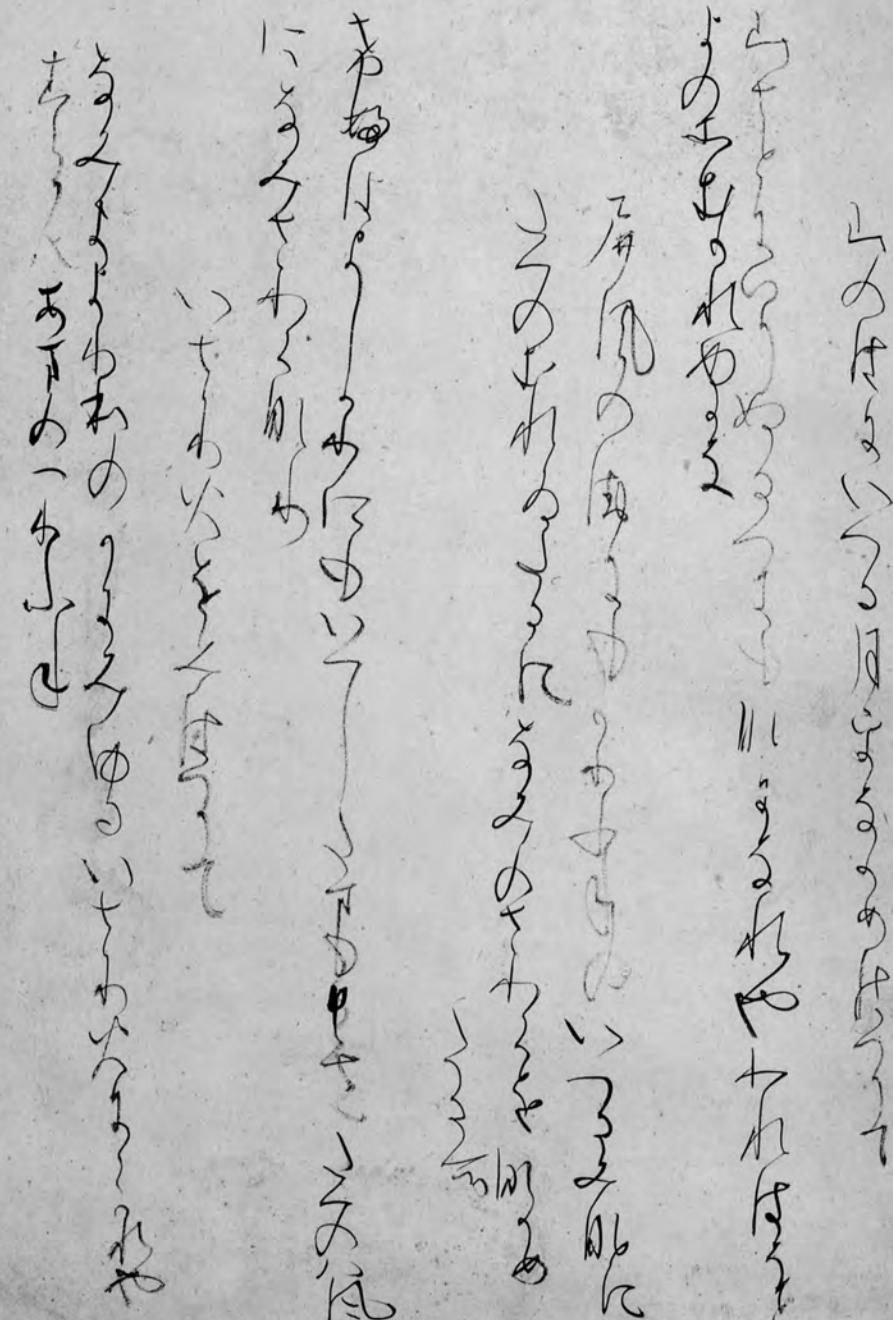
特別研究部臨書課題

(半紙普通判 (料紙可)・縦長に使用)

II (毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 左記の掲載以外も可。

※落款を必ず
入れる。
署名、もし
くは〇〇臨
(押印のみも
可)<よみ>
山のはにいづる月を、ながめ
はべりて
山ざとにいりぬるつきもなになれ
やわれはうき
屏風のゑに、もかりぶねのい
よのそむかれぬかな
やけはうき
たづのむれたるに、なみの
さわぐをながめ

※掲載図版は84%縮小



(常盤山文庫蔵)

すらんあまのつりぶね
いさり火をみはべりて
なみほのかにみゆるいさり
ぐさたづのは風
になみさわぐなり

ふはよしかりにもいでじたまも
たる所
たづのむれたるに、なみの
さわぐをながめ

はべりて
山ざとにいりぬるつきもなになれ
やわれはうき
屏風のゑに、もかりぶねのい
よのそむかれぬかな
やけはうき
たづのむれたるに、なみの
さわぐをながめ

解説) 「新撰古筆名葉集」(安政
5年(1858)刊) の権大納言行成卿の
項に、「針切」四半、カナ文字細
キ故二云とあり、針切の名の由
来と藤原行成の筆であることを
伝えている。しかし、行成筆につ
いては確証がなく、さらによつて
11世紀末から12世紀初めころの書
写と考えられる。この針切は、そ
の名の由來の通り細くて鋭い筆線
と、流麗で自由闊達なリズムが魅
力である。臨書に用いる筆は、い
ちだなどの命毛のしっかりした、
こしの利いたものがふさわしい。
(図版は「重之の子の僧の集」より)

※古筆は原寸(以上も可)
で臨書しましょ。

習い方解説 (五)

最首翠風

獨釣寒江雪
(柳宗元)
(獨り釣る寒江の雪)

千山鳥飛ぶこと絶え

萬徑人蹤滅ゆ

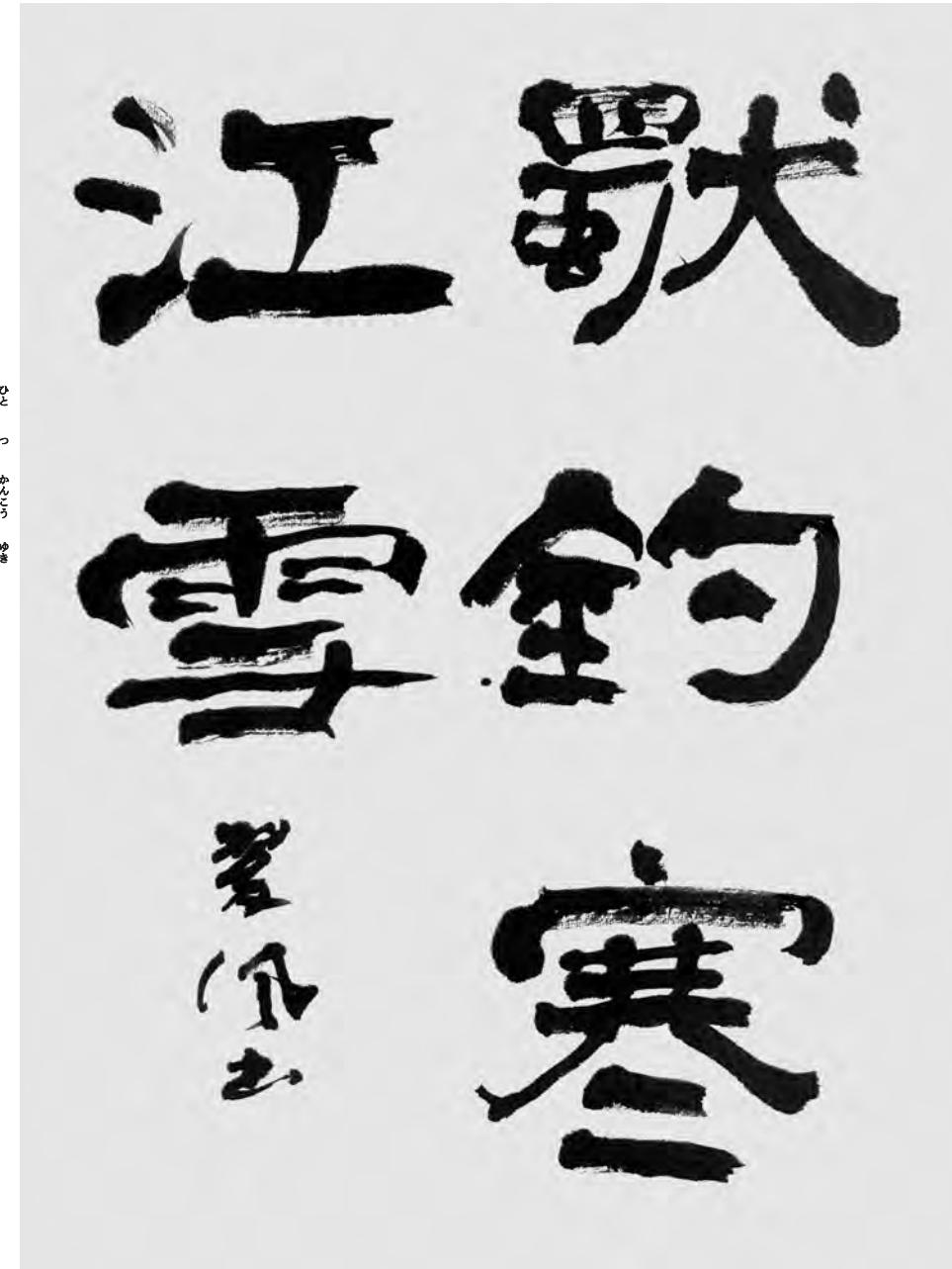
孤舟蓑笠の翁

獨り釣る寒江の雪

水墨画のような景の一句を隸書で書いてみました。隸書体は読み易く装飾性があるので、看板やタイトル文字などによく使われていますが、俗書が多く残念です。

隸書には波磔のない古隸(楊淮表記・開通褒斜道刻石など)と波磔のある八分隸(曹全碑・礼器碑・張遷碑など)があります。

この頁は参考作品ですから手本と捉えず書体、書風ともに自分の書を書いてほしいと思います。創造への夢を膨らませて!



書体=自由

獨釣寒江雪 よみ(獨り釣る寒江の雪)

意香心葉
(意香心葉)

清い心のたとえ

中国の古典を基にしてきたが、
今回は日本の古典にも目を向けて
みたい。

王羲之の樂毅論を光明皇后が臨
書したと伝えられるものである。

用筆はかなり複雑で、「縦せんと
欲すればまず横に入筆し…横せん
と欲すればまず縦に入筆し…」を
しっかりと実践しているが、驚く
のはこれが1センチ角(大きくて
も1.5cmか)の中で行っていること
である。

現代に生きる我々は、忙しいこ
とを理由に基本的なところをない
がしろにしてはいないうだろうか。



書体=楷書



光明皇后 樂毅論

かな規定 初段以上【三月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

平川峰子選書

習い方解説 (五)

平川峰子

さむしろの夜半の衣手さえさて
初雪白し岡の邊の松

(式子内親王)

筵に寝ていた夜半の衣の袖が
冷えきって冴え冴えと初雪が
白く丘のほとりの松の木に掛
かっている。かりにも皇女た
る者が初雪の季節に戸外のむ
しろで寝るとは思われないか
らこれは内親王の想像であろ
う。

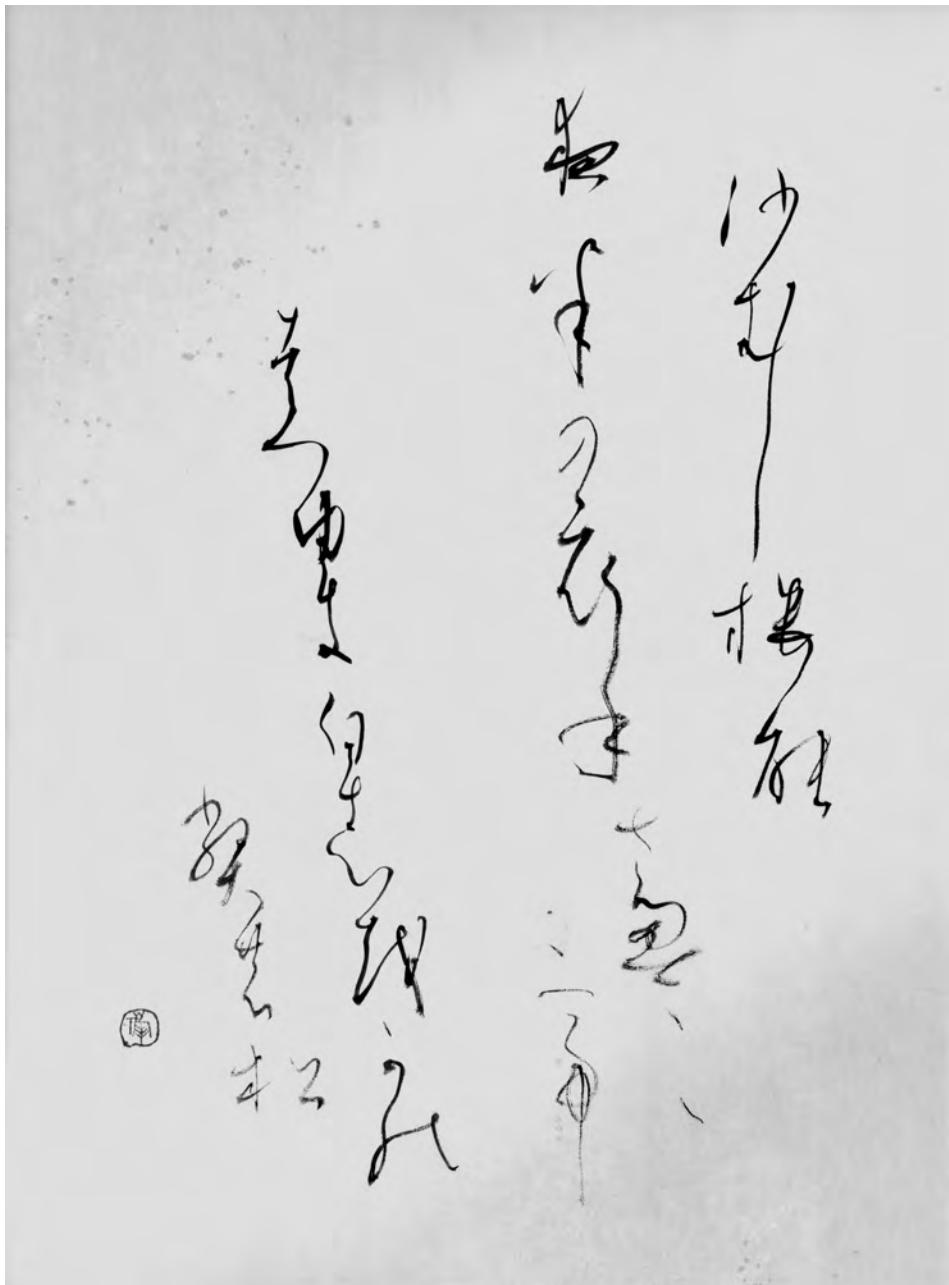
今月はあまり使わない変体がな
を使ってみました。沙を佐に、弊
は邊などに替えてみてください。
のが4つありますので字典で調
べていろいろなを使ってみてく
ださい。

書を形成している要素について
の知識を持つことが創作には大切
です。構成と墨色の2本の柱のう
ち、構成は形です。全体の形、文
字の形、線の強弱と形、方向。運
筆の速度と緩急(流動美)、余白
です。墨色は墨の持つ色ですが、
濃淡潤渴が生み出す美しさです。

よみ方 さ(沙)むしろ(樓)の(能)夜半の衣手さえ(盈)さえ(へへ)て(帝)

初雪(者つ由支)白し(志)岡(越可)の(能)邊(弊)の(農)松

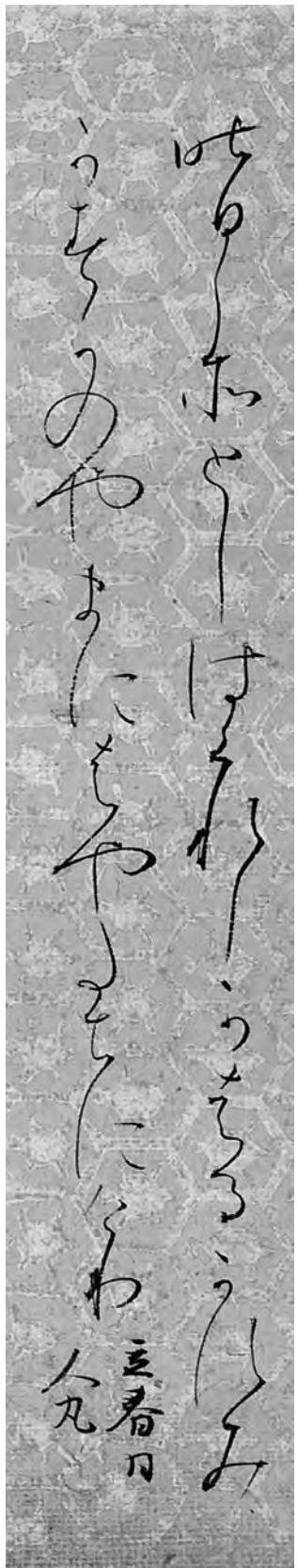
創作



かな規定 秀級以下【三月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿)を臨書する。

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大111%)



よみ方 昨日こそ(所)としはく(久)れしか(可)は(者)るが(可)す(須)み
か(可)す(春)が(可)のやまには(者)やた(多)ちにけ(介)り(利) 立春日人丸

習い方解説 (二)

庄 司 紅 還

梅が香にたぐへて聞けぬうぐひすの
声なつかしき春の山ざと (西行)

和歌2行書きは、左右の行の響

き合いを心がけましょう。漢字・

かな・変体仮名をどこに配置する

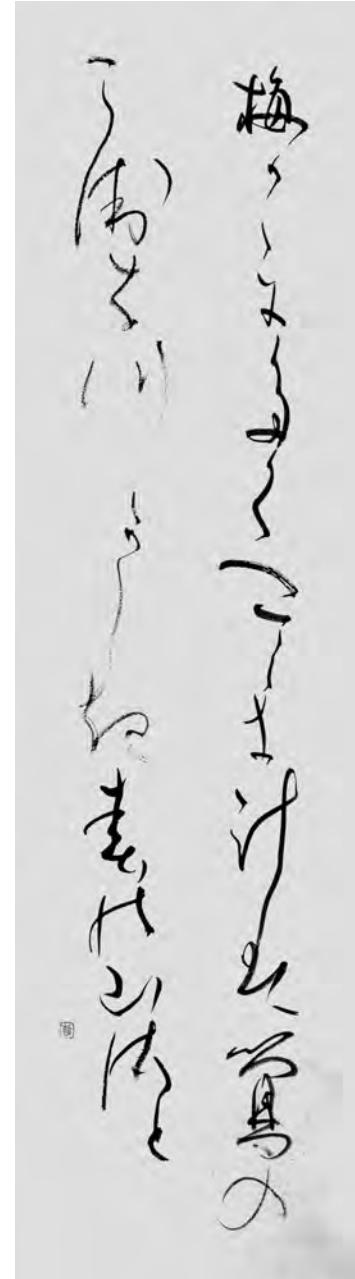
か難しいところです。古筆の勉強

や他の創作作品の鑑賞等によって

培われるのでしょうか。「梅」を

「んゑ」「うめ」「梅」にするのも

一つの試みです。
部分のみでなく、最後に全体の
バランスを考慮して書き上げて下
さい。



かな条幅規定【三月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

庄 司 紅 還 選 書

よみ方 梅が(可)香(ハ)た(尔)た(多)くへてき(文)け(計)ば(盤)鶯の
声(こ衛)なつ(州)か(可)しき(起)春の(能)山さ(佐)と

創作

* タテ形式に限る

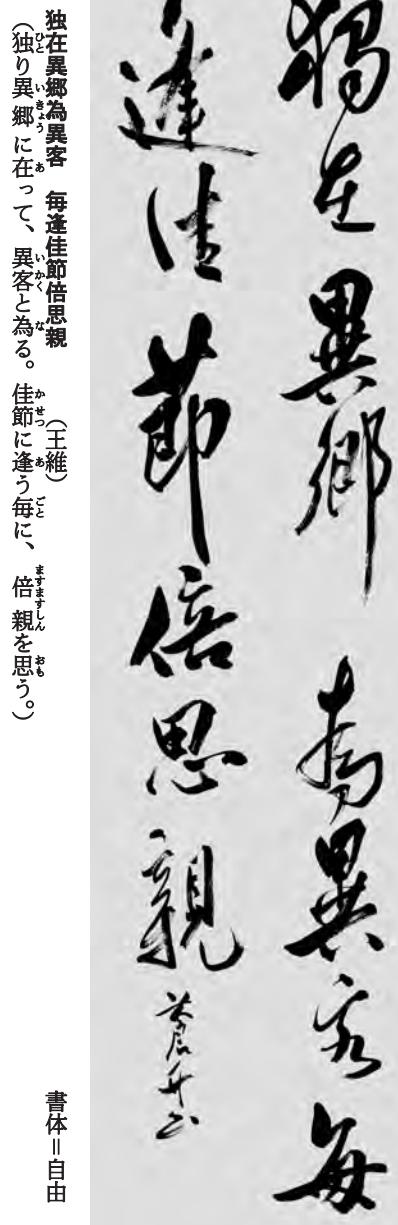
漢字 条幅 規定 初段以上 【三月十五日締めきり】

用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

習い方解説 (五)

名 越 蒼 竹



書体=自由

現代の条幅行草書は、ほぼ明清時代にその基本が確立されました。この時代の人々に影響を与えたのが顏真卿や米芾です。今回は米芾調で試みました。縱作品は行の流れが大切です。文字群を意識しきごでは呼吸を切らないで運筆することを心がけてください。文字の大小・墨の潤渴に変化をつけ、全体として章法をまとめましょう。

*タテ形式に限る

習い方解説 (五)

大 平 邑 峰

今回は、唐・孔子廟堂碑を参考にしました。のびやかで柔軟でありながら端正な書風は、歐陽詢の書と同時に学ぶと理解しやすいと思います。向勢による結構法と大らかな筆使いで気分を楽にして書いてみましょう。もちろん用具もいろいろ試してみましょう。

漢字 条幅 規定 秀級以下 【三月十五日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

大平邑峰選書

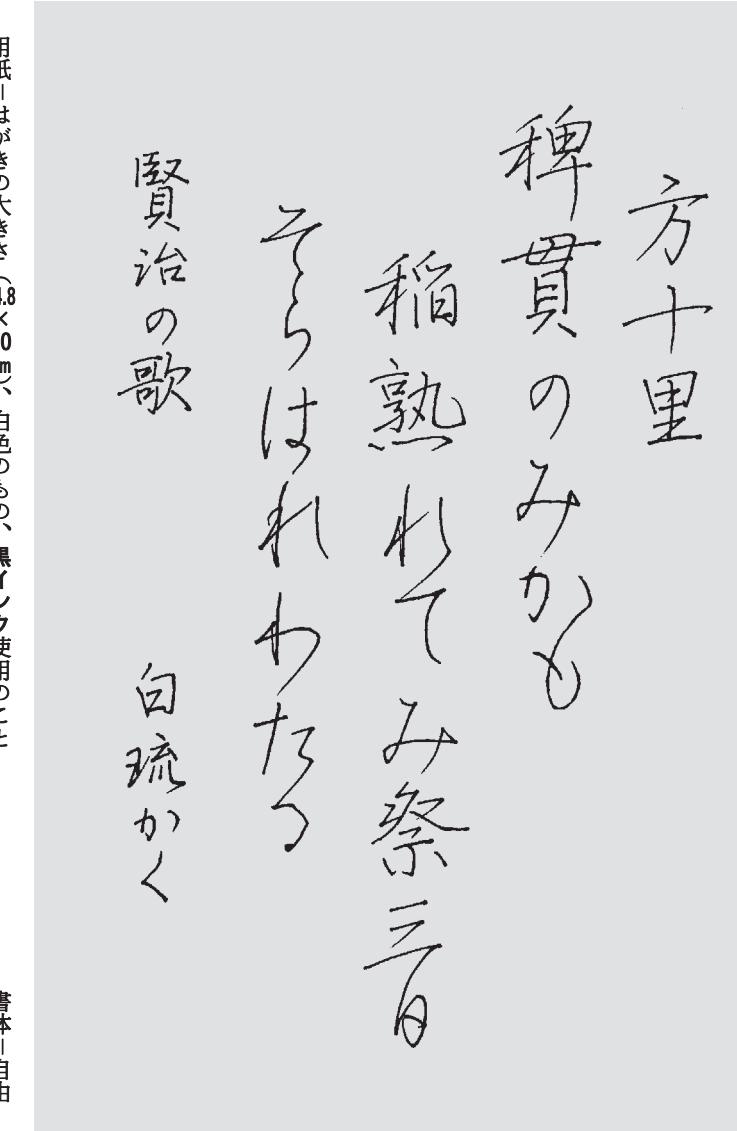
書体=自由



任筆縱橫亦適意
(筆に任せて縱横すれば亦た意に適う)
(明・張適)

習い方解説(五)

北村白琉



今回は賢治の短歌を書きました。

稗貫は、37才の生涯を終えるまで賢治が

暮した所で、現在は花巻市となっています。

歌意は「稗貫の地の十里四方に稲が実り、

祭りの三日間、豊作を喜ぐかに空も晴れ渡っている」と思われます。半生を農に捧げた賢治が、亡くなる前日に作った一首です。

字数が少ないので、大きめの字で4行書きとし、行書で少し連綿も取り入れて書いてみました。参考手本にとらわれず、行数を変えるなどしてもよいでしょう。全体の調和を考えた上で、自由に伸び伸びと書いて下さい。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 680

ペン字部 師範 豊田 翠玉
漢字とかなの調和良く、運筆に抑揚を見せ、澄んだ線質に惹きつけられた。品格漂う秀逸の作。

◎ペン字部総評 誤字少なく、平がなの多い課題であったが調和を保った作が多かった。無理に連綿せず自然な流れ配慮を。（雪枝評）

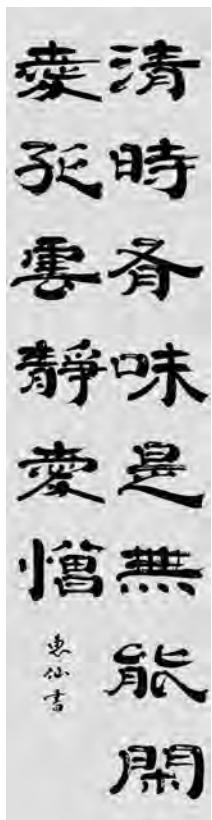
町の家々は、こんやの銀河の祭りに、いちいの葉の玉をつるしたりひのきの枝にあかりをつけたり、いろいろ仕度をしていました。
「銀河鉄道の夜より」翠玉書

かな条幅部 師範 濱田 竹雪
抑制のきいた筆致がリズミカルで美しく老練である。古典美と現代の共存が絶妙です。押印注意。



前衛書部 特選 遠藤 和香
紙や墨を吟味し、リズムにのつた運筆に墨色牙える。柔らかに喰いこんだしみじみした線感あり。

◎前衛書部総評 思索し深みのある作品と上辺だけの作品の二層あります。自己表現の充実を。（京子評）



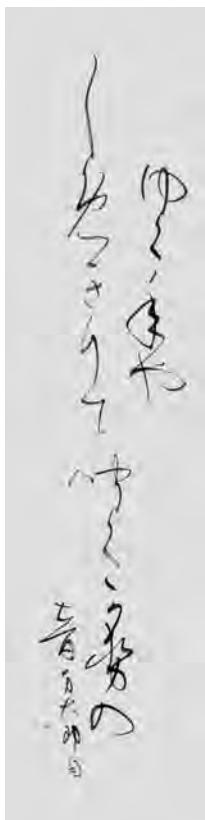
現代詩文書部 特選 小野寺久美
紙背にまで籠めた筆線と切れ味鋭い細線の調和が一段と余白を輝かせ、沈潜した作となっている。

◎現代詩文書部総評 草書体の使用は極力避けて読み易い方向で研究してほしい。（石雲評）



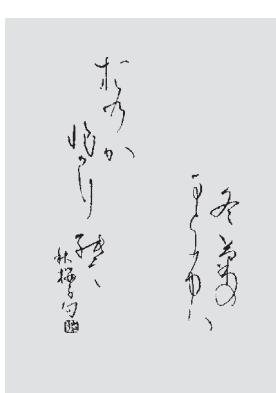
◎かな条幅部 総評 上級 2行書き現。安定した運筆のリズムが爽快さを醸し出して充実の作。

漢字条幅部 師範 土屋 恵仙
メリハリの効いた木簡隸書風表現。安定した運筆のリズムが爽快さを醸し出して充実の作。

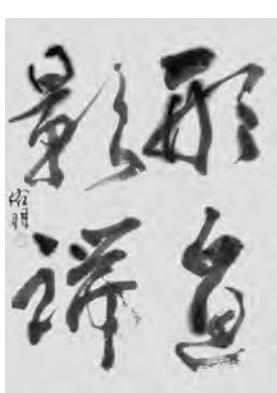


漢字部 師範 大橋 佑朋
淡墨の宿墨を用いたという工夫の態度を買う。筆圧の軽重自在で潤滑のバランスもよい。

◎漢字部 総評 参考作品は手本ではないので上級者は特に自分なりの創意を望む。落款の不調和も散見。



かな部 師範 清水由紀子
運腕大きく大胆なりズムで圧倒的な存在感です。墨継ぎの能が、書き出しと字粒が揃い少々残念／うな渴筆が多いが、細くても弾力は不可欠。古筆参照／（洋子評）
◎かな部 総評 書き始めが漢字の時は墨は控え目にしたい。筋のよさを醸し出しても彈力／（洋子評）



今月の

特別研究部優秀作品(特選)

漢字 (八街)

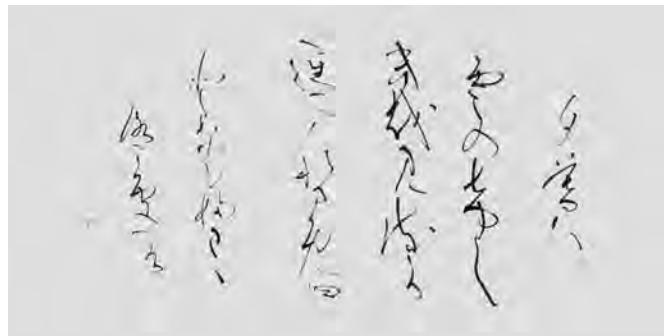
小川白柳



174×53cm

小川白柳書

かな (如月) 治田芳江



治田芳江書

68×136cm

「夕暮は」

現代詩文書 (大雲)

柿沼彩香 「館林市歌」

- ◆ 潤渴が自然な動きの中で生まれ風景となってい。温かく、かな。の特徴を捉えて流麗な作。(多希子評)
- ◆ 切れ味鋭く、小気味よいリズムで運筆、明るく爽やかな作。やや周りの余白が広すぎた感あり。
- ◆ 紙面の中に、余裕をもった感覚で、切れの良い線質で潤いあり。表情豊かな生動を感じる作。魅力的。(藤扇評)
- ◆ 細く歯切れのよい線条と軽やかなりズムが快い。行間の白さがさわやかに響いてくる見事な作品となつた。(紅瑠評)

「漢詩五言二句」

- ◆ 迫力ある躍動する表現は、かなり運筆が多彩でないと。少し細かな所も気になるが、凜としている。(藤扇評)
- ◆ 弾力のある筆勢が直下に伸びて心地良い。多彩な線が無理なく解け合ってリズミカルに流れている。(多希子評)
- ◆ 気宇大きく、大胆な運筆が冴える作。重厚かつ粘りある線条で表現し、すさまじい迫力は見る者を引きつける。(紅瑠評)



柿沼彩香書

175×55cm

- ◆ 七五調の歌詞を淡々と暢びやかに表現している。平凡な構成だが太細、大小の変化が自然でよい。(大雲評)
- ◆ 羊毛筆の粘りを鮮烈な筆致で表現する。3行仕立てをリズムよく、美しく思うまさに運筆。鍛錬度高し。(藤扇評)
- ◆ 羊毛筆を巧みに使い、快いリズム感を奏でている。漢字とかなの調和が淡々とし、温雅な作風を生んでいる。(紅瑠評)
- ◆ 豊かな墨量で、穏やかさと、めり張りの利いた美しさを生んでいる。軽快なタッチで3行の余白も自然。(多希子評)

- ◆ どっしりと重量感ある筆致は、エネルギーで見る者は、エネルギーで見る者を圧倒する。やや筆圧過重な所を調節したい。(大雲評)

前衛書

(篤信)

三浦朱鳳



三浦朱鳳書

176×60cm

「霜柱」

◆紙面にスケールの大きさと豪快さが漲っている。濃墨による潤筆と渴筆を上下に対比させ鮮烈な印象を与える作。

(紅瑠評)

◆書き出しの重量感ある表現がインパクトを与える。中央部の拡がりへ展開する。下部やや重すぎたか。

(大雲評)

◆濃墨の線に気迫を感じる。紙を削り碎くよう下部へと流れる強韌な線が妙味を醸している。

(多希子評)

現代詩文書

(加美) 小川祥燕



小川祥燕書

60×180cm

「坂村真民の詩」

◆大胆な構成で、前半の余白が印象的な作。ポイントは後半に山場を持つといったことが成功している。

(大雲評)

◆横表現の充実した作。渴筆の線がやや軽さを感じるが、そして…から後の後半の筆勢が効果となる。

(藤扇評)

◆二分した横形式に潤渴を鮮やかに描いて奥行きをもたらしている。渴筆部分が詩情味に豊かさを生む。躍動感あふれる作品となつた。

(多希子評)

(紅瑠評)

「吉瀬彩雨」



吉瀬彩雨書

54×128cm

「伊都内親王願文」

◆表現の難しい古典。加工紙を使用しての着実な安定作で妙技の線質を掌中に収めて書き込んだ。

(藤扇評)

◆原帖の雰囲気をよく観察し、定した臨書作。潤渴の変化、バランスもよい。ややまとまりすぎか。

(大雲評)

◆伊都内親王願文のよどみがなく堂々とした筆致を着実に捉えた臨書作。原帖に対する真摯な姿勢が窺える。

(紅瑠評)

吉瀬彩雨書

創作の部(49点)

漢字ー9点

かなー3点

現代ー17点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

臨書の部

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

かなー2点

現代詩文書

漢字ー20点

かなー2点

篆刻ー1点

前衛ー19点

書の部(22点)

漢字ー20点

かなー2点

創作の部

漢字ー20点

漢字研究部
(伊都内親王願文)

選評名 越 蒼 竹

今月のホープ作品



田中岳舟

◎漢字研究部 総評
用筆が俯仰法、運筆も大胆で弾力的である
粘りのある線で鋒先の開閉・弾力を見事に表現し、毛筆の性能を生かしきった快作。暢びやかな動きを見せながらも字がよく引き締まり、原帖への觀察力が行き届いている。落款印が丁寧に捺してあればと、若干惜しまれる。

ため、筆路が分かれにくい部分も多かったと思います。提出された作品には誤字も相当数ありました。特に「便」「海」「有」です。また逆筆での始筆部分が二画に見えたりした人もあるようです。古典の臨書において筆脈が不明瞭な場合、訛文を確認し、字典を引いて最も納得できる崩しや筆脈を理解した上で、筆を執るようにしていいものです。実力的に高まると思われる人にも誤字が散見されました。



美朋雅裕良翠
梢美芳美章朋

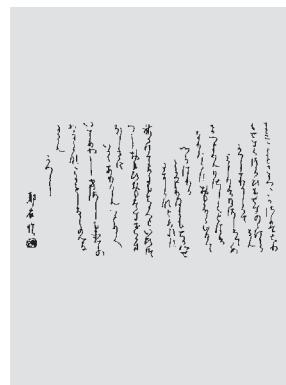
春友紫道睦光
香
景里仙彦心子

萌敦幸惠美祐
香子子泉紬子

ま武篁杏永雅
き美右邑篁悠

選評 勝山初美

今月のホープ作品



田中耶衣

かな研究部 総評
全体に良く観察されて書かれていました。一方墨の濃すぎる作品も散見。繊細な線を書くには濃度に注意し、先のきく小さめの筆を使うと良いでしょう。

眞和星 玉温恵 惠瑞香 幹和良
華子子 枝子子 子華舟 生子泉

樹た誠 A 大坪 も原か和 I 雲和く秀	大奥清硯や八も上蓮玉玉宗大高天松 N 上菊透紅う清姫玉雲田月水ま戸く泉紅川松苑豊井輝村 H 泉月春瑠る月葵松
葛梅鶴伊礒安青津澤藤貝藤木佳	鶯小小宮伊市森中本野青茂草楓中青川中新須飯境後田山林林澤東川田村田中木木刈田里木田尾井行田高野藤中内
恵代琴寿清裕藤美子舟子耀子連	美純嘉草京紫藤ヶ美喜葵絢眞和星玉温恵瑞香幹和良耶梢風江秋子泉谷子雪子郷水華子子枝子子華舟生子泉衣
高陵佳	京玉竹菊石千高長玉上白紅澄千秀も玄竜土書弘た煮潮や菊高た大う蘭華橋川美月習葉崎月松泉珠風春葉水く穹泉氣游舟か書音も月崎か雲る鼎祥
會木作	吉谷八宮松松平長根西西浪戸富戸千高鈴杉庄渋猿坂齋斎小小黒木川加田知木崎丸重浦山谷岸山田川村澤部葉橋木田司谷渡本藤藤峰林柳村崎藤由理
勇介	佑美紀英愛翠玉だ千正葵雍秋博惠藤陽雅睦祥咏美葦里杏つ加晃竹順優雅予子舟明石景江子峰子龍子花舟子風心風艸子右美邑え功代葉子子芳

水游も大光海水く阪彩入	昌蓮東己清玉大墨幕華大澄蘭樹た水青桜春高一上澄にも A 光高英樹大蘭文正幕東大玉澄も八蘭華誠千高椿生紅苑伯未月川雲宣張仙雲春鼎原か海蓮草汀真宮泉春瑠く I 彩峰崎原雲筆華張向雲藻春く街鼎祥和葉崎翠瑠
飯荒新天浅多み洋裕藤慧な子泉雪子江	吉遊山山大湊三真松前堀深林早浜根沼苗渡鶴鶴塚高高鈴澄櫻酒齊紺高小熊木北菅河荻小岡井市板崎石飯飯安新藍泉川井羽川由妃タ由千由
や孫東旭干玉安正誠扇松富硯昌澄芳蒼大黎大千黎大汐附英生千大白椿秀黎大正正大明梅白椿正高正澄竜高有正大こま韻実老渴川波華和筆華村貴水苑春蘭原阪明阪葉明雲風中峰大葉阪扇局江韻明阪華こ華阪桃流翠華真か華春泉陵秋華阪だ	
田竹高高関鈴杉新新柴鹿佐佐坂齋斎後小小河小小久國吉北菊上神川加金金加加小小大大大梅鶴植今井石生五玉内山橋木根木浦谷條田田々々卷藤田藤林野泉保峰瀬又地林田元納子岡藤瀬野澤西塚島木山木澤田村上川駒	
哲智靖真竹代や幸翠三洋志考雅麗翠江舞喜勇萩恵美純智琴彩影春泰萩典茱順津萩春翠日萩和一由昌教久簾李紅貴靜洋津翠白子舟薰寿子江子方苑香彩夢萩太江子月治美翠雨峠峰溪子仙子希美菜陽夏光子美美子誉子山名雨泉香子子花采	

芳椿大明天も竹無千や高華椿如玉桜松こ遷蘭翠阪漢璋く美門葉ま真仙翠月川草村だ	椿長澄生上稻前生有澄大千椿前翠月春大泉毛橋大秋春阪葉翠橋	上正洞東は正玉高土遊北遊一大倉耕黎秀泉華書向せ華松陵氣雲原雲草阪吉雲
80 渡綿六吉吉吉横山山山山柳安八森守茂宮三三増増牧本細別藤福深廣平春賒早林濱島長蓮橋丹西西仁長中中中土積筑名邊井波田田種山中口岸瀬嶋木本友木川嶋上田田野多村府本田澤地山山尾部田山谷田本羽澤澤木井村西江井田井		
名氏名略お筆鶴節藤蘭清律余つ砂順悦津翠洋敏裕佳華清和貴信喜流佳美彩つ勝ほ		
信溪子玉子玉舟玉風子美子子子子子子秀次枝子子惠源月幸華子美る朗子雪香子永霞子美峰堂仙琴子子枝和子		